

## 2026年 1月 浜松聖書集会のご案内

( 時間：午前10時 ～ 正午 )

- 1月 4日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)  
司会：大手 美千代  
聖書講話：テサロニケの信徒への手紙 4章13節～5章26節  
「パウロの終末観とキリスト者の生き方」 水戸 潔
- 1月11日 (日) 集会 (クリエート浜松 21号室)  
司会：永井 徹 感話：野澤 功  
聖書講話：ローマの信徒への手紙 13～16章  
「人は皆 上に立つ権威に従うべきです」 溝口 春江
- 1月25日 (日) 集会 (クリエート浜松 52号室)  
司会：生江 扶左子  
聖書講話：マタイによる福音書 3章1～12節  
「悔い改めよ 天の国は近づいた」 武井 陽一

### 日ごとに新しく生まれる

溝口 正

「一日は、私どもにとりては短き一生涯であります。朝生まれ、昼に働き、夜は復活の希望を いただいて眠りの床につきます。かくして私どもには一年に三六五回の生涯があります。なんと楽しいことではありませんか。」  
(『統一日一生』 はじめ 内村鑑三)

何という充実した言葉ではありませんか。このような「一日一生」という充実した一日を生きるためには、毎日がキリストに在ることによってのみ可能となるのであります。聖書は、キリストに在るならば、それができると教えております。では、キリストに在るとはどういうことでしょうか。これはむづかしいことではなく、私たちが神にゆるされ愛されている神の子どもとして、父なる神に「天のお父さま」と呼び掛けて 祈ることができればそれがキリストに在る証明であります。それができない時は、ちょっと 危ないのです。毎日祈ること、聖書に親しむこと、父なる神の御声に霊の耳を傾けること、これを毎日するのがキリストに在る神の子どもの生活であります。

(1993年1月3日『復活』第316号)